

(品目別需給編)

# 1 小麦

## (1) 国際的な小麦需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し> 2022/23年度

**生産量** 前年度比 ↓ 前月比 ↓

- ・ロシア、米国等で上方修正も、インド、EU等で下方修正され、前月から下方修正された。

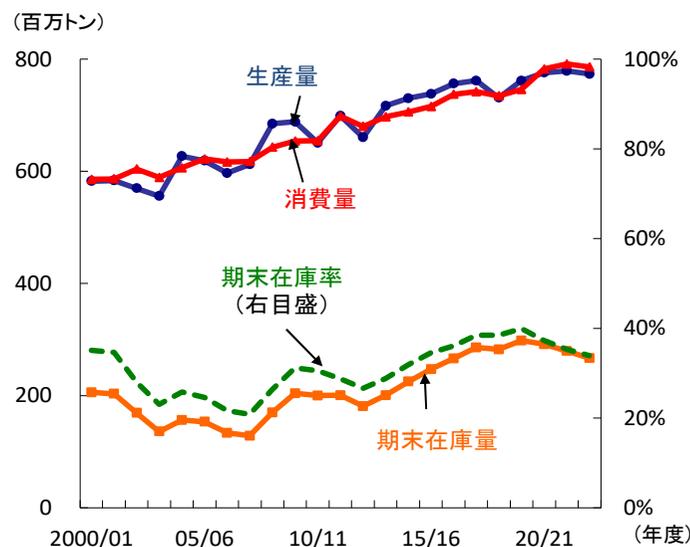
**消費量** 前年度比 ↓ 前月比 ↓

- ・イラン等で上方修正も、インド等で下方修正され、前月から下方修正された。

**輸出量** 前年度比 ↑ 前月比 ↓

- ・ロシア等で上方修正も、インド等で下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

**期末在庫量** 前年度比 ↓ 前月比 ↓



資料:USDA「PS&D」(2022. 6. 10) をもとに農林水産省にて作成

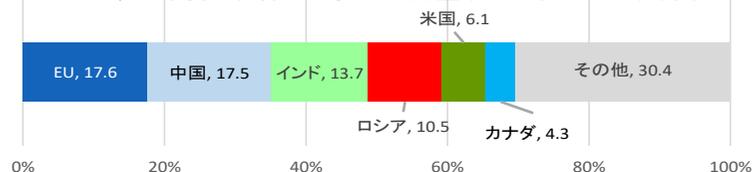
## ◎世界の小麦需給

(単位:百万トン)

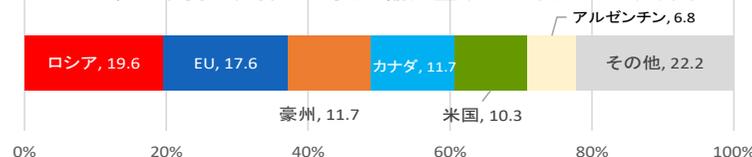
年 度	2020/21	2021/22 (見込み)	2022/23		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	775.7	779.0	773.4	▲ 1.4	▲ 0.7
消費量	782.3	791.2	786.0	▲ 1.5	▲ 0.7
うち飼料用	158.0	161.3	153.1	▲ 0.5	▲ 5.1
輸出量	203.3	199.4	204.6	▲ 0.3	2.6
輸入量	195.4	195.4	201.5	0.2	3.1
期末在庫量	291.6	279.4	266.9	▲ 0.2	▲ 4.5
期末在庫率	37.3%	35.3%	34.0%	0.0	▲ 1.4

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(10 June 2022)

○ 2022/23年度の世界の小麦の生産量(773.4百万トン)(単位:%)



○ 2022/23年度の世界の小麦の輸出量(204.6百万トン)(単位:%)



○ 2022/23年度の世界の小麦の輸入量(201.5百万トン)(単位:%)



## (2) 国別の小麦の需給動向

### < 米国 > 生産量は前年度に比べ5.5%増加も、ここ20年で2番目に少ない

【生育・生産状況】USDAによれば、2022/23年度の生産量は、前月予測に比べ0.2百万トン上方修正され、47.3百万トンと、前年度に比べ、冬小麦は減少も春小麦は前年度の干ばつによる減産から回復する見込み。そのうち、冬小麦の生産量は、32.1百万トンで、品種別には、ハード・レッド・ウインター(HRW)が主産地の干ばつにより15.8百万トン(対前年度比22.4%減)、ソフト・レッド・ウインター(SRW)が9.7百万トン(同0.8%減)、ハード・ホワイト・ウインター(HWW)が0.4百万トン(同23.3%減)、ソフト・ホワイト・ウインター(SWW)は6.2百万トン(同54.1%増)。

「Crop Progress」(2022.6.21)によれば、冬小麦は出穂進捗率が91%となり出穂はほぼ終了し、収穫が開始されている。収穫進捗率は25%と前年度同期(15%)、5年平均(22%)を上回っている。州別には、オクラホマ州やテキサス州では同進捗率が72%に達している。また、作柄評価(良からやや良の割合)は、干ばつの影響により、前週から1ポイント低下し30%と前年度同期の49%を下回っている。州別には、HRWの主要生産地であるカンザス州では、27%(前年度同期63%)、オクラホマ州では14%(同60%)、テキサス州では5%(同24%)と前年度同期に比べ悪化している。

他方、プレーンズ北部の雨がちな天候から播種が遅れた春小麦は、発芽進捗率が89%(前年度同期98%、5年平均97%)となった。春小麦の作柄評価(良からやや良の割合)は、59%と干ばつの影響を受けた前年度同期の27%を上回っている。

「U.S. Drought Monitor」などによれば、6月14日現在、HRWの主要生産地であるカンザス州の西部等を含め、冬小麦生産地の45%が干ばつ状態となっており、前月(5月17日)の66%に比べるとかなり改善したものの、前年度(2021.6.15)の27%よりは高い水準となっている。また、デュラム小麦は、生産地の44%が干ばつ状態となっている一方、春小麦は、生産地の22%が干ばつ状態であり、それぞれ前月(72%、31%)より改善した。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2022/23年度の輸出量は前月予測からの変更はなく、輸出余力の減少と価格上昇に伴う競争力の低下から、1972/73年度以降最低の21.1百万トンと、前年度に比べ3.7%減少。一方、2021/22年度の輸出量は、前月予測からの修正はなく、21.9百万トン。

## 小麦—米国 (冬小麦が全体の7割、春小麦は3割)

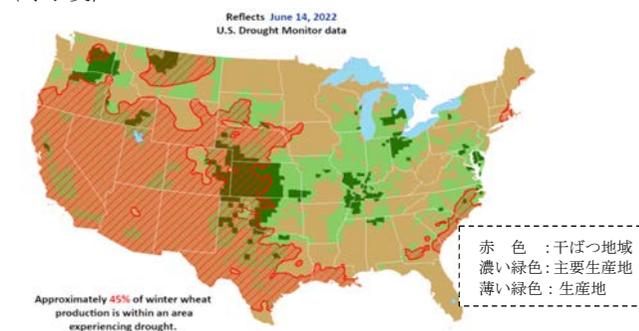
(単位:百万トン)

年 度	2020/21	2021/22 (見込み)	2022/23 (22年6月~23年5月)		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	49.8	44.8	47.3	0.2	5.5
消費量	30.5	30.7	30.2	-	▲1.4
うち飼料用	2.6	2.7	2.2	-	▲19.9
輸 出 量	27.0	21.9	21.1	-	▲3.7
輸 入 量	2.7	2.6	3.3	-	26.3
期末在庫量	23.0	17.8	17.1	0.2	▲4.3
期末在庫率	40.0%	33.9%	33.2%	0.4	▲0.7
(参考)					
収穫面積(百万ha)	14.89	15.04	15.00	-	▲0.3
単収(t/ha)	3.34	2.98	3.15	0.01	5.7

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」  
「World Agricultural Production」(10 June 2022)

## 図 米国の干ばつ状況(2022年6月14日時点)

<冬小麦>



資料: U.S. Agriculture in Drought (2022.6.16)

## 写真 干ばつ影響を受けたカンザス州の小麦圃場



## < カナダ > 干ばつ被害から回復し、生産量は前年度に比べ5割以上増加

【生育・生産状況】カナダ農務農産食品省(AAFC)「Outlook For Principal Field Crops」(2022.6.20)によれば、2022/23年度の小麦全体の生産量は、前月予測から1.5百万トン上方修正され、33.1百万トンと、カナダ西部の干ばつ被害により減少した2021/22年度に比べ、播種面積と単収(例年の水準を仮定)の増加から52.8%増加する見込み。そのうち、デュラム小麦の生産量は、前月予測からの変更はなく、5.7百万トンと前年度に比べ2倍以上の増加。また、普通小麦の生産量は、前月予測から1.5百万トン上方修正され、27.4百万トンと同44.3%の増加。

小麦全体の播種面積は、前月予測からの変更はなく、前年度に比べ7.5%増加の10.02百万ヘクタールの見込み。そのうち、デュラム小麦は同12.6%増加の2.52百万ヘクタール、普通小麦は、同5.9%増加の7.68百万ヘクタールの見込み。普通小麦のうち、春小麦は、前年度に比べ7%増加したものの、冬小麦は同13%減少した。小麦全体の播種面積の増加は、カナダ統計局「Principal field crop areas, March 2022」(2022.4.26)によれば、菜種、大麦等からのシフトとみられる。

AAFCによれば、デュラム小麦の播種は、サスカチュワン州やアルバータ州で進展し、5月30日時点のそれぞれの播種進捗率は96%及び100%。なお、土壌水分が不足しており、生育には十分な降雨が必要となっている。また、普通小麦の播種は、マニトバ州で冷涼で雨がちな天候から遅延し、サスカチュワン州の一部やアルバータ州で乾燥天候の継続で遅延しており、単収への影響が懸念されている。

【貿易情報・その他】AAFCによれば、2022/23年度の小麦全体の輸出量は、前月予測から0.3百万トン上方修正され22.2百万トンと、前年度に比べ50.0%増加する見込み。そのうち、デュラム小麦は前月予測からの変更はなく4.4百万トンと、輸出余力の増加から前年度に比べ91.3%増加。普通小麦は前月予測から0.3百万トン上方修正され、17.8百万トンの見込みで、輸出余力の増加や、アフリカやアジアの需要増から前年度に比べ34.6%増加。なお、デュラム小麦は供給量の約70%が輸出に仕向けられる。

カナダ穀物委員会(Canadian Grain Commission)によれば、2022年4月の輸出量は普通小麦が79.7万トン、デュラム小麦は24.5万トンの計104.2万トンで、輸出先国は、普通小麦はインドネシア(20.1%)、中国(18.9%)、デュラム小麦は、アルジェリア(75.1%)、米国(18.4%)の順。

## 小麦－カナダ(春小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

年 度	2020/21	2021/22 (見込み)	2022/23(22年8月～23年7月)		
			予測値、( )はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	35.2	21.7	33.0 (33.1)	-	52.4
消費量	9.1	9.5	9.1 (9.6)	-	▲ 4.2
うち飼料用	4.2	4.5	4.0 (5.2)	-	▲ 11.1
輸 出 量	26.4	15.5	24.0 (22.2)	-	54.8
輸 入 量	0.6	0.6	0.6 (0.1)	-	-
期末在庫量	5.7	2.9	3.4 (5.0)	-	17.1
期末在庫率	15.9%	11.7%	10.3% (15.7%)	-	▲ 1.3
(参考)					
収穫面積(百万ha)	10.02	9.25	9.70 (10.00)	-	4.9
単収(t/ha)	3.51	2.34	3.40 (3.31)	-	45.3

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(10 June 2022)  
AAFC 「Outlook For Principal Field Crops」(20 June 2022)

## 写真: マニトバ州の発芽段階の小麦



マニトバ州の圃場で栽培されているレッド・スプリング小麦(Red Spring Wheat)。発芽段階であり、順調に生育している。(2022年6月1日)

表 カナダ産普通小麦及びデュラム小麦の輸出先国(2022年4月)  
(普通小麦) (デュラム小麦)

国名	輸出量 (万トン)	輸出量シェア (%)	国名	輸出量 (万トン)	輸出量シェア (%)
インドネシア	16.0	20.1	アルジェリア	18.4	75.1
中国	15.1	18.9	米国	4.5	18.4
日本	12.1	15.2	日本	0.9	3.6
バングラデシュ	8.6	10.8	ベネズエラ	0.7	2.9
コロンビア	4.9	6.1	-	-	-
その他	23.0	28.9	その他	-	-
計	79.7	100.0	計	24.5	100.0

注1: Canadian Grain Commissionが認可したエレベーターから輸出された小麦(Licensed)のみのデータ。  
注2: 普通小麦の品種はNo.1-3Canada Western Red Spring, No.2 Canada Prairie Spring, No.1Canada Western Red winter, No.2 Canada Eastern, Other, デュラムはCanada Western Amber Durum Others  
資料: Canadian Grain Commission 「Export of Canadian Grain and Wheat Flour」(2022年5月27日)をもとに作成。

## < 豪州 > 生産量は史上最高の前年度を 17.4%下回るも 30.0 百万トンの見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2022/23 年度の実生産量は前月予測からの変更なく、史上最高となった前年度に比べ 17.4%減少し、30.0 百万トンの見込み。2022/23 年度の実収穫面積は、肥料、燃料価格は高いものの、小麦価格が高水準であることから増加。一方、単収は、豊作であった前年度に比べ減少するが、平年よりは高い見込み。

豪州農業資源経済科学局 (ABARES) 「Australian Crop Report」(2022.6.7)によれば、2022/23 年度の実生産量は、播種面積が前年度より 1%増加の 13.2 百万ヘクタールとなることから、30.3 百万トンと 10 年平均を 22%上回り史上第 4 位となる見込み。

主要生産州の実生産量は次の通り。ニュー・サウス・ウェールズ州 (NSW 州) では、播種面積が菜種にシフトし前年度に比べ 1%減少し、単収も同 22%減少することから、9.9 百万トン(同 23%減)。ウェスタン・オーストラリア州 (WA 州) では、大麦等からのシフトで播種面積が前年度に比べ 1%増加するものの、単収が同 21%減少することから 10.3 百万トン(同 20%減少)の見込み。

GIWA (西オーストラリア州穀物団体) (2022.6.10)によれば、西豪州の作付面積は前月予測の 4.95 百万ヘクタールから 4.89 百万ヘクタールに下方修正。2022 年 6 月の生育条件は、降雨不足の中部、北部を除いて、前年度より良好である。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2022/23 年度の実輸出量は、生産量が減少することから、前年度に比べ 12.7%減少するものの、史上第 3 番目となる 24.0 百万トンの見込み。なお、6 月 10 日時点の豪州の輸出価格(FOB)は、旺盛な国際需要を受けて、5 月 12 日時点の 417 ドル/トンから 455 ドル/トンに上昇した。

豪州統計局によれば、2022 年 4 月の輸出量は、前月 (2.9 百万トン) に比べ 2.7 百万トンと減少。また、2022 年 1 月から 4 月までの輸出量は 10.6 百万トン。輸出先国は、中国(20.9%)、フィリピン(12.7%)、インドネシア(12.1%)、ベトナム(10.1%)の順で、これらの国の輸出量計は全体の約 56%を占める。なお、インドネシアはその多くを豪州から輸入していたが、2018~2020 年の間は豪州の干ばつによる小麦価格の上昇から、黒海周辺国に輸入先を切り替えていた。

また、昨年度の北米産小麦の減産、ウクライナ侵攻による需要の集中等から、輸出港のスロット確保が難しい状況。そのため、物流の遅延や混乱、輸入国の穀物輸入コストの増加が生じている。

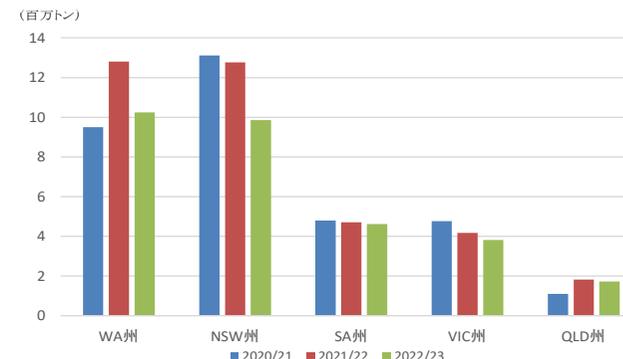
## 小麦—豪州 (冬小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

年 度	2020/21	2021/22 (見込み)	2022/23 (22年10年~23年9月)			
			予測値、( ) は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	33.3	36.3	30.0 (29.9)	-	▲ 17.4	
消費量	8.0	8.5	7.6 (8.8)	-	▲ 11.2	
うち飼料用	4.5	5.0	4.0 (5.0)	-	▲ 20.0	
輸 出 量	23.9	27.5	24.0 (24.7)	-	▲ 12.7	
輸 入 量	0.2	0.2	0.2 (0.4)	-	-	
期末在庫量	4.3	4.8	3.5 (3.2)	-	▲ 28.0	
期末在庫率	13.6%	13.4%	11.0% (9.6%)	-	▲ 2.4	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	12.90	13.00	13.20 (12.8)	0.30	1.5	
単収(t/ha)	2.58	2.79	2.27 (2.34)	▲ 0.06	▲ 18.6	

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(10 June 2022)、  
IGC 「Grain Market Report」(19 May 2022)

図 豪州主要生産州別の小麦生産量の推移



資料: 豪州農業経済科学局 (ABARES) 「Crop Report」(2022.6.7)のデータをもとに農林水産省にて作成

表 豪州の小麦輸出先国別輸出量

2022年4月			2022年1月~4月		
国名	輸出量(千トン)	シェア(%)	国名	累積輸出量(千トン)	シェア(%)
中国	221.0	20.9	中国	76.1	28.6
フィリピン	134.0	12.7	ベトナム	34.0	12.8
インドネシア	127.8	12.1	フィリピン	33.4	12.5
ベトナム	107.4	10.1	韓国	22.9	8.6
韓国	76.3	7.2	インドネシア	16.5	6.2
その他	392.1	37.0	その他	83.5	31.4
合計	1058.7	100.0	合計	266.3	100.0

資料: 豪州統計局のデータをもとに農林水産省にて作成

## ＜ EU27+英国 ＞輸出量は世界第2位となる見込み

【生育・生産状況】欧州委員会によれば、EU27の2022/23年度の生産量は、前月予測に比べ0.3百万トン上方修正され、前年度に比べ0.1百万トン増加の139.1百万トンの見込み。そのうち、普通小麦はリトアニア、イタリア等で下方修正されたものの、フランス、ドイツ等で上方修正されたことから、前月予測に比べ0.3百万トン上方修正され、131.4百万トンの見込み。また、デュラム小麦はスペイン、フランス等で下方修正されたものの、イタリアで上方修正されたことから同0.03百万トン上方修正され7.7百万トンの見込み。また、USDAによれば、英国は、前月予測から0.2百万トン上方修正され、14.6百万トン。

USDAによれば、5月中旬から6月初旬にかけて、ヨーロッパ北部及び東部で雨天が続き、土壌に水分が供給された。一方、ヨーロッパ南部および西部では乾燥した気候となり、特にポルトガル、スペイン、イタリア、ギリシャなどの地中海湾岸の地域では、平年よりも高温の日が続いた。フランスの乾燥状態は5月中旬からの降雨によって緩和されたが、降雨の時期が遅すぎたため、多くの冬作物は乾燥による影響を受けたと見られている。スペインでは南部で収穫が開始されているが、依然として乾燥状態が続いており、冬小麦の生産量減少が懸念されている。そのため、ヨーロッパの多くの地域では気温が高く平年より約1週間生育が進んでいるものの、土壌水分は十分ではない。

フランスアグリメール(2022.6.6)によれば、フランス産普通小麦、デュラム小麦とも出穂が終了。普通小麦の生育は、前年度同期(出穂進捗率92%)に比べると早い。一方、デュラム小麦の生育は前年度並(同99%)である。また、同6日時点のフランス産小麦の生育状況を示す「とても良いから良い」の割合は、乾燥天候の影響で、普通小麦は前月の72%から66%に低下し、前年度同期の81%を下回り、デュラム小麦も前月の83%から62%に低下し、前年度同期の70%を下回っている。今後の乾燥天候による作柄への影響が懸念されている。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2022/23年度のEU27の輸出量は、前月予測から0.1百万トン上方修正され36.0百万トンと、前年度に比べ22.0%増加し世界第2位となる見込み。

なお、フランスアグリメール(2022.6.6)によれば、2021/22年度のフランス産普通小麦の輸出量は前月予測(9.3百万トン)から9.1百万トンに下方修正された。これは、中国の新型コロナウイルス感染対策に伴う輸入量の減少と、小麦価格の高止まりが要因である。

## 小麦－EU27+英国（冬小麦を主に栽培）

(単位：百万トン)

年度	2020/21	2021/22 (見込み)	2022/23(22年7月～23年6月)		
			予測値、( )はIGC	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	136.4	152.4	150.7 (152.0)	▲ 0.2	▲ 1.1
消費量	118.2	125.1	124.1 (121.0)	▲ 0.1	▲ 0.8
うち飼料用	48.5	53.9	52.1 (48.8)	▲ 0.1	▲ 3.2
輸出量	30.2	30.2	37.0 (35.3)	0.1	22.5
輸入量	8.6	6.8	7.0 (7.2)	-	2.9
期末在庫量	12.1	16.1	12.7 (14.0)	0.6	▲ 21.2
期末在庫率	8.2%	10.3%	7.9% (9.0%)	▲ 0.1	▲ 2.5
(参考)					
収穫面積(百万ha)	24.37	26.02	25.90 (25.68)	-	▲ 0.5
単収(t/ha)	5.59	5.86	5.82 (5.92)	▲ 0.01	▲ 0.7

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(10 June 2022)  
IGC 「Grain Market Report」(19 May 2022)  
表内及び( )内のデータはEU27ヶ国+英国のデータ

## 表 EU産小麦の輸出先国別輸出量

《普通小麦》

国名	2022年3月		2021年7月-2022年3月		
	輸出量(万トン)	シェア(%)	輸出量(万トン)	シェア(%)	
1 エジプト	41.96	19.1%	アルジェリア	337.65	15.7%
2 アルジェリア	29.95	13.6%	エジプト	230.90	10.8%
3 イラン	19.80	9.0%	中国	221.36	10.3%
4 中国	17.47	8.0%	ナイジェリア	161.80	7.5%
5 モロッコ	14.03	6.4%	モロッコ	115.34	5.4%
6 ナイジェリア	10.92	5.0%	韓国	86.30	4.0%
その他	85.39	38.9%	その他	993.15	46.3%
計	219.52	100%	計	2,146.49	100%

《デュラム小麦》

国名	2022年3月		2021年7月-2022年3月		
	輸出量(万トン)	シェア(%)	輸出量(万トン)	シェア(%)	
1 チュニジア	30.92	28.9%	チュニジア	26.32	53.4%
2 アルジェリア	26.25	24.6%	アルジェリア	15.63	16.2%
3 モロッコ	14.80	13.8%	トルコ	6.49	5.3%
4 リビア	14.50	13.6%	コートジボワール	6.26	5.1%
5 スイス	6.63	6.2%	モロッコ	4.24	3.8%
6 コートジボワール	3.78	3.5%	スイス	3.82	2.1%
その他	10.00	9.4%	その他	17.25	21.6%
計	106.88	100%	計	80.00	100%

資料：EC 欧州委員会, Cereals exports and imports (2022.5.23)をもとに農林水産省にて作成

## < 中国 > 小麦生産量は前年度に比べ 3.2%増加の 138.5 百万トン

【生育・生産状況】中国糧油情報センター(2022.6.2)によれば、2022/23 年度の生産量は、単収の増加により前月予測から 1.7 百万トン上方修正され、前年度に比べ 3.2%増加の 138.5 百万トンの見込み。

作期別には、冬小麦は前月予測に比べ、1.6 百万トン上方修正され 132.9 百万トン(対前年度比 3.2%増)、春小麦は同 0.1 百万トン上方修正され 5.6 百万トン(同 4.2%増)。なお、省別の生産量のシェアは、冬小麦が、河南省(28.6%)、山東省(19.9%)、安徽省(13.0%)、河北省(11.0%)。一方、春小麦は冬小麦に比べ少ないものの、新疆地区、内モンゴル地区で生産されている。

2022/23 年度の冬小麦の生育条件は、主要産地の河南省等では、概ね登熟期に適した天候となり、安徽省等では収穫に適した乾燥天候となった。中国農業農村部によると、6 月 16 日時点で冬小麦の収穫面積は 18.3 百万ヘクタール(作付面積の 90.4%)で、収穫進捗率は前年度同期比 1.6 ポイント遅い。中国糧油情報センターによれば、冬小麦の各生産地域の収穫状況は、陝西省等で収穫が開始、河南省で約 10%、安徽省で約 20%が収穫され、四川省では収穫が終了した。一方、中国中央气象台(2022.6.6)によれば、全国の春小麦は、分けつ期から出穂期に入っている。

なお、前年度の秋の洪水により冬小麦の播種に遅れが発生し、その影響が懸念されたが、全国の冬小麦の一、二類苗の比率は、越冬前の 72.1%に比べ 17.4 ポイント上昇した。作柄は予想を上回っており、多くの生産地域で増産傾向となり豊作が見込まれている。

【貿易情報・その他】農業農村部飼料行情情報網(2022.5.23)によれば、小麦価格の上昇により、飼料用需要は減少した。中国糧油情報センターによれば、2022/23 年度の飼料用需要は前月予測から 8.0 百万トン下方修正され 19.0 百万トンと、前年度に比べ 50.0%減少した。また、小麦輸入量は前年度(10.4 百万トン)から 25.2%減少し、7.8 百万トンの見込み。中国海関統計によれば、2022 年 4 月の小麦輸入量は、前年度同期(89.5 万トン)を 22.6%下回る 69.3 万トン。2022 年 1 月から 4 月の輸入量は、同(380.7 万トン)を 2.0%下回る 372.9 万トン。農業農村部「農産品供需形勢分析月報 2022 年 4 月号」によれば、国内卸売価格は、依然高い水準であるものの、小麦粉の消費需要が弱いため安定した。今後、新穀の小麦が流通するまで安定的に推移するとみられている。

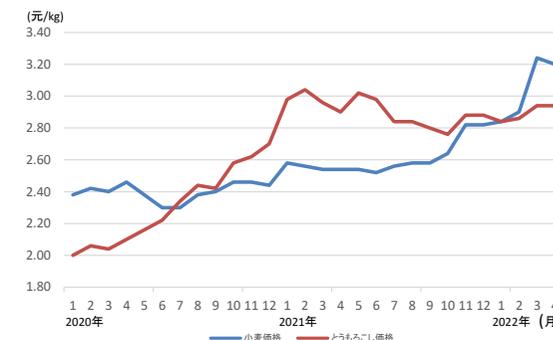
## 小麦—中国(冬小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

年度	2020/21	2021/22 (見込み)	2022/23(22年7月~23年6月)		
			予測値、( )はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	134.3	137.0	135.0 (135.0)	-	▲ 1.4
消費量	150.0	148.0	144.0 (141.0)	-	▲ 2.7
うち飼料用	40.0	35.0	30.0 (26.5)	-	▲ 14.3
輸出入量	0.8	0.9	0.9 (1.0)	-	5.9
輸入量	10.6	9.7	9.5 (9.4)	-	▲ 2.1
期末在庫量	144.1	141.9	141.5 (135.4)	-	▲ 0.3
期末在庫率	95.6%	95.3%	97.7% (95.3%)	-	2.3
(参考)					
収穫面積(百万ha)	23.38	23.57	23.40 (23.5)	-	▲ 0.7
単収(t/ha)	5.74	5.81	5.77 (5.74)	-	▲ 0.7

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(10 June 2022)  
IGC 「Grain Market Report」(19 May 2022)

## 図 小麦、とうもろこしの中国国内価格の推移



注: 小麦: 河南省鄭州市食料卸売市場の卸売価格、とうもろこし: 全国平均卸売価格

資料: 中国糧油情報センター

表 中国の小麦輸入先国(2022年4月、2022年1月~2022年4月、2021年1月~2021年4月)  
(輸出量:万トン、シェア%)

国名	2022年4月		2022年1月~2022年4月		2021年1月~2021年4月			
	輸入量	シェア	輸入量	シェア	輸入量	シェア		
豪州	49.6	71.5	豪州	209.0	56.0	カナダ	108.9	28.6
フランス	19.2	27.6	フランス	133.0	35.7	豪州	104.5	27.4
カナダ	0.4	0.5	カナダ	30.0	8.0	米国	86.2	22.6
カザフスタン	0.2	0.4	カザフスタン	0.7	0.2	フランス	65.4	17.2
-	-	-	ロシア	0.1	0.0	カザフスタン	7.5	2.0
その他	0.0	0.0	その他	0.0	0.0	その他	8.2	2.2
計	69.3	100	計	372.9	100.0	計	380.7	100.0

資料: 中国海関統計(2022.5.20)をもとに農林水産省で作成

資料: 中国海関統計(2022.5.20)をもとに農林水産省にて作成

## < ロシア > 小麦輸出量は世界第1位

【生育・生産状況】USDAによれば、2022/23年度の生産量(クリミア地域分を含まず)は、天候に恵まれ冬小麦の単収が上昇したことにより、前月予測から1.0百万トン上方修正され、前年度に比べ7.8%増加の81.0百万トンの見込み。作期別の生産量は、冬小麦は前月予測に比べ、1.0百万トン上方修正され59.5百万トン(前年度52.2百万トン)、春小麦は前月予測からの変更はなく21.5百万トン(同23.0百万トン)の見込み。冬小麦は前年度に比べ、収穫面積が減少するものの、冬期の枯死も少なく生育状況が良好で単収が増加した。他方、春小麦は収穫面積が減少し、単収も減少する見込み。

2022/23年度の生育状況は、特にロシアヨーロッパ部の南部や北カフカス地域で降雨により5月を通じて土壌水分が十分となり良好な生産見通しとなった。なお、その十分な土壌水分のため、最近生じた高温の影響はなかった。なお、同地域で冬小麦の約56%が生産されている。また、冬小麦の約44%が生産される中央連邦管区や沿ボルガ連邦管区では、6月中旬から下旬にかけて生産量を左右する重要な登熟期に入り、7月に収穫期を迎える見込み。

他方、ロシア農業省の速報値によれば、6月3日時点の春小麦の播種面積は、播種予定面積(13.01百万ヘクタール)の92.7%に当たる12.06百万ヘクタールとなったものの、前年度同期(12.77百万ヘクタール)に比べ減少している。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2022/23年度の輸出量は、前月予測から1.0百万トン上方修正され40.0百万トンと前年度に比べ21.2%増加し、史上第2位となる見込み。輸出量の増加の要因は、生産量の増加や他の主要輸出国に比べ輸出価格が相対的に安価なこと、輸出競合国であるウクライナへのロシア侵攻により海上輸送による輸出が大幅に制限されていることである。また、インドが5月に国内供給の確保のため輸出規制を開始したことや、対露経済制裁に参加していない中近東、北アフリカからの強い需要から、2022/23年度はロシアが世界第1位の輸出国となる見込み。

現地情報会社によれば、5月の小麦輸出量は前年度同期に比べ約2倍の1.2百万トン。ロシア穀物同盟によれば、2月15日から設定された輸出枠が6月30日で解除されること、7月以降の新年度もロシアが主要輸出国になるとの見込みから、7月以降の新年度は輸出需要が高まると見られている。なお、可変関税額は、2022年4月中旬に初めて100ドル/トンを超え、6月下旬には146.1ドル/トンまで上昇した。

## 小麦—ロシア(主産地の欧州部で冬小麦、シベリアで春小麦を栽培)

(単位:百万トン)

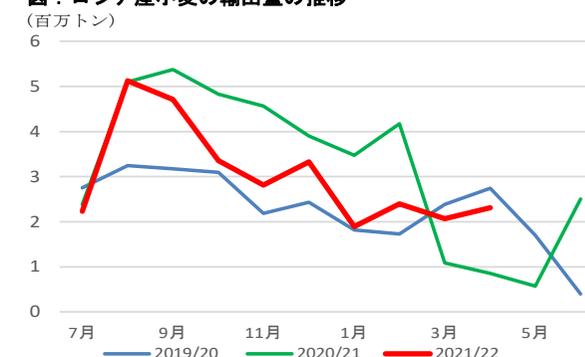
年 度	2020/21	2021/22 (見込み)	2022/23(22年7月~23年6月)			
			予測値、( )はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	85.4	75.2	81.0 (84.7)	1.0	7.8	
消費量	42.5	41.8	42.3 (44.3)	-	1.2	
うち飼料用	19.0	18.5	19.0 (19.4)	-	2.7	
輸出量	39.1	33.0	40.0 (37.1)	1.0	21.2	
輸入量	0.4	0.3	0.3 (0.2)	-	-	
期末在庫量	11.4	12.1	11.1 (14.7)	-	▲7.9	
期末在庫率	13.9%	16.2%	13.5% (18.0%)	▲0.2	▲2.6	

(参考)

収穫面積(百万ha)	28.68	27.63	27.50 (28.2)	-	▲0.5
単収(t/ha)	2.98	2.72	2.95 (3.00)	0.04	8.5

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(10 June 2022)  
IGC 「Grain Market Report」(19 May 2022)

図: ロシア産小麦の輸出量の推移



資料: 農業市況研究所のデータをもとに農林水産省にて作成

図: ロシア産小麦の輸出関税額の推移(2021年6月~2022年6月)



資料: ロシア農業省のデータをもとに農林水産省にて作成

## ＜ウクライナ＞ ロシアの侵攻により小麦の輸出量は前年度に比べ47.4%減少

【生育・生産状況】USDAによれば、2022/23年度の生産量(クリミア地域分を含む)は、前月予測からの変更はなく、21.5百万トンの見込み。ロシアの侵攻により、前年度に比べ、収穫面積と単収が減少し、生産量は史上最高だった前年度に比べ34.9%減少する見込み(過去5年平均より23%減)。

ウクライナ農業政策食料省(2022.6)によれば、2022/23年度の春小麦の播種は終了し、播種面積は前年度と同水準の0.19百万ヘクタールとなった。

ほぼ順調に播種が進んだ理由は、ロシアの侵攻前に、生産者が無機肥料(必要分の80%)、種子(同70~80%)、農薬(60%)等を購入していたためである。

他方、ウクライナ統計局によれば、主要作物の冬小麦の播種面積は前年度に比べ2.5%減少の6.54百万ヘクタール(クリミア及びドネツク州、ルガンスク州を含まず、現在の紛争地域のデータを含む)である。

同省は、2022/23年度の全体的小麦収穫量を18.0百万トンから20.0百万トンと見込んでいる。

2022/23年度の小麦の生育状況(5月末現在)は、冬小麦が茎立期から出穂期の初期で、春小麦が第3葉形成期から分けつ、根茎形成期。作柄は共に概ね良好及び並である。

【貿易状況・その他】USDAによれば、2022/23年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、前年度に比べ47.4%減少の10.0百万トンの見込み。輸出量の減少要因は、ロシアの侵攻による黒海の港湾の閉鎖や、生産量の減少である。なお、海上輸送の代替として、鉄道利用による近隣ヨーロッパ諸国を通じての輸出方法が検討されている。

また、通常ウクライナでは小麦の98%が黒海経由で輸出されていたが、南部の港湾地域がロシアからの攻撃を受けていること、及び黒海に機雷が敷設されていることから、ポーランド経由で鉄道による輸出が検討されているとの報道もある。

しかし、通関手続きの遅れ、及びインフラの問題(ウクライナのレール幅が欧州と異なる)があり、輸出は遅延し、穀物等の輸出品は同国西部に滞留している。このため、農業政策食料省によれば、2022年3月、4月、5月のそれぞれ的小麦輸出量は、3.3万トン(対前年度同月比95.3%減)、0.9万トン(同98.7%減)、4.4万トン(同94.9%減)となった。

## 小麦－ウクライナ (主に冬小麦を栽培)

(単位:百万トン)

年 度	2020/21	2021/22 (見込み)	2022/23(22年7月～23年6月)		
			予測値、( )はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	25.4	33.0	21.5 (19.4)	-	▲ 34.9
消費量	8.7	10.0	11.2 (8.7)	-	12.0
うち飼料用	2.6	4.0	6.0 (2.8)	-	50.0
輸 出 量	16.9	19.0	10.0 (10.0)	-	▲ 47.4
輸 入 量	0.1	0.1	0.1 (0.1)	-	-
期末在庫量	1.5	5.6	6.0 (7.9)	-	7.1
期末在庫率	5.9%	19.3%	28.3% (42.4%)	-	9.0
(参考)					
収穫面積(百万ha)	6.85	7.41	5.85 (5.03)	-	▲ 21.1
単収(t/ha)	3.71	4.45	3.68 (3.86)	-	▲ 17.3

資料:USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(10 June 2022)

図 ウクライナの鉄道貨物路線図



ウクライナと隣接する EU 加盟国間の主な鉄道の国境検問所は、ポーランドとの①「イゾフ〜グルベシユフ」、②「モスティスカ〜メヂカ」、③「ヤゴジン〜ドログスク」、スロバキアとの④「 Chop〜チエルナ・ナド・ティソウ」、ハンガリーとの⑤「 Chop〜ザホニ」、ルーマニアとの⑥「バドウル・シレ〜ドルネシュティ」の6ヶ所である。しかし、線路幅が違うため積み替えが不可欠であることや、台車の不足などの理由により、実際の処理能力は半分程度とも見られている。

資料:ウクライナ鉄道

## 2 とうもろこし

### (1) 国際的なとうもろこし需給の概要（詳細は右表を参照）

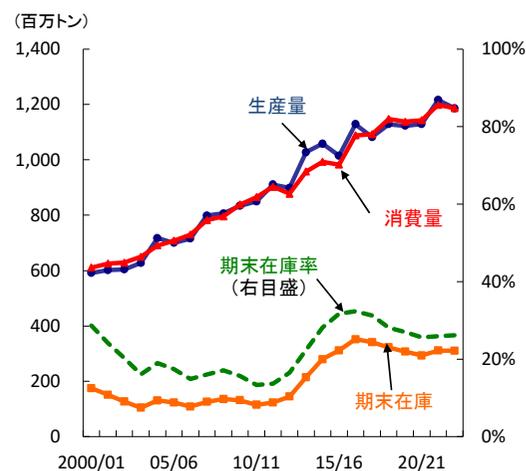
<米国農務省（USDA）の見通し> 2022/23 年度

**生産量** 前年度比 ↓ 前月比 ↑  
 ・ウクライナで上方修正され、前月から上方修正された。

**消費量** 前年度比 ↓ 前月比 ↑  
 ・ウクライナ、EU 等で上方修正され、前月から上方修正された。

**輸出量** 前年度比 ↓ 前月比 ↓  
 ・トルコで下方修正され、前月からわずかに下方修正された。

**期末在庫量** 前年度比 ↓ 前月比 ↑



資料：USDA「PS&D」（2022.6.10）をもとに農林水産省にて作成

## ◎世界のとうもろこし需給

(単位：百万トン)

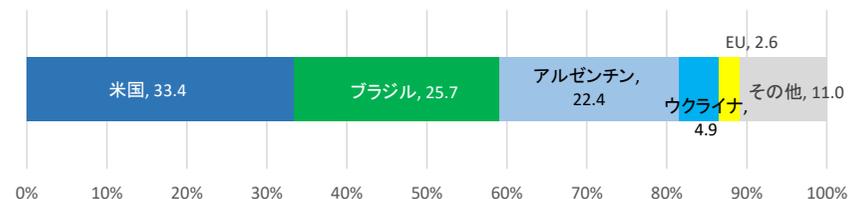
年度	2020/21	2021/22 (見込み)	2022/23		
			予測値	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	1,129.0	1,216.1	1,185.8	5.1	▲ 2.5
消費量	1,143.2	1,198.4	1,186.3	1.3	▲ 1.0
うち飼料用	723.5	748.7	747.9	1.3	▲ 0.1
輸出量	182.9	196.7	182.7	▲ 0.0	▲ 7.1
輸入量	185.3	179.5	176.7	▲ 0.2	▲ 1.5
期末在庫量	293.3	310.9	310.5	5.3	▲ 0.2
期末在庫率	25.7%	25.9%	26.2%	0.4	0.2

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(10 June 2022)

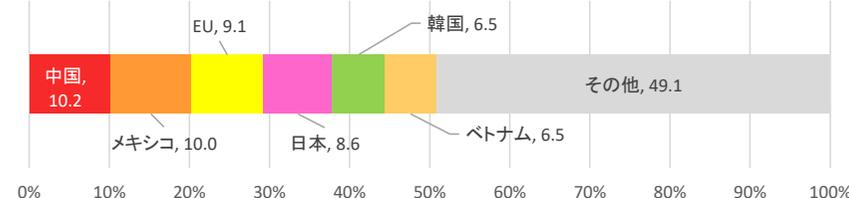
### ○ 2022/23 年度 世界のとうもろこしの生産量(1,185.8百万トン) (単位：%)



### ○ 2022/23 年度 世界のとうもろこしの輸出量(182.7百万トン) (単位：%)



### ○ 2022/23 年度 世界のとうもろこしの輸入量(176.7百万トン) (単位：%)



(2) 国別のとうもろこしの需給動向

< 米国 > 生産量は主に収穫面積減少により減産、輸出減の見通し

【生育・生産状況】USDAによれば、2022/23年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、前年度より4.3%減の367.3百万トンの見込み。肥料価格高騰の影響から中西部の主要生産州で作付けが肥料の投入量のより少ない大豆等へシフトしたことが要因。

5月上旬までの中西部の低温で雨がちな天候により遅れていた作付けは5月中旬以降の天候改善により急速に進展し、作付けはほぼ終了した。USDA「Crop Progress」(2022.6.21)によれば、主要18州における発芽率は95%と前年度同期(99%)より遅れているものの、過去5年平均(95%)並みとなっている。作柄評価は、良からやや良が70%と前年度同期(65%)を上回っている。

【需要状況】USDAによれば、2022/23年度の消費量は、スターチ・グルコース向けの需要が前月予測から0.1百万トン上方修正された。エタノール用需要が前年度から横ばいの一方、生産量の減少による国内価格の上昇等から飼料用需要が減少することから、前年度より2.2%減の309.1百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2022/23年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、生産量の減少に加えて、世界的な価格高騰による需要の抑制、一定の国内需要があること等から、前年度より2.0%減の61.0百万トンの見込み。なお、2021/22年度の輸出量は、カナダ向けの輸出見通しの下方修正等を背景に前月予測から1.3百万トン下方修正され、2020/21年度より11.0%減の62.2百万トンの見込み。

USDAによれば、2022年輸出検証高(2022年1月6日～6月2日)は、30.5百万トンであり、内訳は中国(8.4百万トン)、メキシコ(6.8百万トン)、日本(5.6百万トン)、コロンビア(2.5百万トン)の順である。

USDAによれば、2022/23年度の期末在庫量は、前年度より5.7%減の35.6百万トンの見込み。なお、期末在庫率は9.6%で、前年度より低下し、引き続き低水準の見込み。

とうもろこし—米国

(単位:百万トン)

年度	2020/21	2021/22 (見込み)	2022/23 (22年9月～23年8月)		
			予測値	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	358.5	383.9	367.3	-	▲4.3
消費量	306.5	316.0	309.1	0.1	▲2.2
うち飼料用	142.2	142.9	135.9	-	▲4.9
エタノール用等	127.8	136.5	136.5	-	-
輸出量	69.9	62.2	61.0	-	▲2.0
輸入量	0.6	0.6	0.6	-	-
期末在庫量	31.4	37.7	35.6	1.0	▲5.7
期末在庫率	8.3%	10.0%	9.6%	0.3	▲0.4
(参考)					
収穫面積(百万ha)	33.31	34.56	33.06	-	▲4.3
単収(t/ha)	10.76	11.11	11.11	-	-

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(10 June 2022)

図: 米国、ブラジル、アルゼンチンのとうもろこし輸出価格(FOB)の推移



資料: IGCのデータをもとに農林水産省にて作成

## ＜ ブラジル ＞ 2021/22 年度、生産量史上最高、輸出増の見通し

【生育・生産状況】USDA によれば、本年9月以降作付けが開始される 2022/23 年度の実生産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積及び単収の増加により、前年度より 8.6% 増の 126.0 百万トンで史上最高の見込み。

なお、ブラジル食料供給公社 (CONAB) 月例報告 (2022.6.8) によれば、2021/22 年度の実収穫が終了した夏とうもろこしの生産量は、2020/21 年度比 0.3% 増の 24.8 百万トンの見込み。

一方、生育中で、一部では収穫を開始した冬とうもろこしの生産量は、マット・グロッソ州やゴイアス州など中西部の主産地では乾燥が続く一方、南部産地では良好な天候に恵まれ、干ばつ・霜害で減産となった 2020/21 年度に比べ 45.0% 増の 90.4 百万トンの見込み。

夏作・冬作の合計では 2020/21 年度比 32.3% 増の 115.2 百万トンで史上最高の見込み。  
(P.23 大豆ーブラジルのクロープカレンダー参照)。

冬とうもろこしの主産地である中西部のマット・グロッソ州で6月10日現在、収穫率は16%で前年度同期より2ポイント遅れている。南部のパラナ州で6月6日現在、冬とうもろこしの26%が成熟期に入っている。ブラジル全体で収穫作業は8月まで続く見込み。

【需要状況】USDA によれば、2022/23 年度の実消費量は、前月予測からの変更はなく、飼料用消費の増加に伴い、前年度より 5.5% 増の 77.0 百万トンと史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2022/23 年度の実輸出量は、前月予測からの変更はなく、生産量の増加に伴い、前年度より 5.6% 増の 47.0 百万トンと史上最高の見込み。

ブラジル貿易統計によれば、2022 年1～4月の輸出量は4.2百万トンで、前年同期(3.5百万トン)と比べ18.7%増となっている。内訳は、1位がエジプト101万トン、2位がイラン86万トン、3位が韓国58万トン。4月の輸出量は69万トンで、前年同月(13万トン)と比べ、5.3倍。ロシアのウクライナ侵攻の影響により、ウクライナ産の市場シェアが低下したことで、ブラジル産の中東向け輸出が増加した。なお、5月23日、ブラジル農務省は中国政府とブラジル産とうもろこしについて検疫問題をクリアし対中輸出の合意に至ったと公表した。

## とうもろこしーブラジル

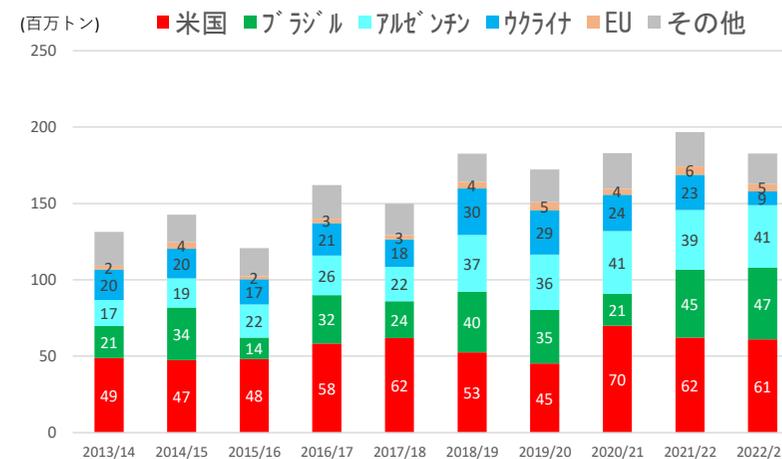
(大豆収穫後に栽培する冬とうもろこしが3/4を占め、夏とうもろこしは1/4)

(単位: 百万トン)

年 度	2020/21	2021/22 (見込み)	2022/23 (23年3月～24年2月)		
			予測値、( ) はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	87.0	116.0	126.0 (123.1)	-	8.6
消費量	70.0	73.0	77.0 (78.6)	-	5.5
うち飼料用	59.5	62.0	65.5 (56.5)	-	5.6
輸 出 量	21.0	44.5	47.0 (43.6)	-	5.6
輸 入 量	2.9	2.0	1.3 (0.5)	-	▲ 35.0
期末在庫量	4.2	4.7	8.0 (8.4)	-	71.0
期末在庫率	4.6%	4.0%	6.4% (6.9%)	-	2.5
(参考)					
収穫面積(百万ha)	19.90	21.80	22.70 (21.80)	-	4.1
単収(t/ha)	4.37	5.32	5.55 (5.65)	-	4.3

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(10 June 2022)  
IGC 「Grain Market Report」(19 May 2022)

図：世界のとうもろこし輸出国の輸出量の推移



資料: USDA 「PS&D」(2022.6.10) のデータをもとに農林水産省にて作成

## < アルゼンチン > 2021/22 年度、生産量史上最高、輸出税は継続

【生育・生産状況】USDA によれば、本年9月以降作付けが開始される2022/23年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、単収の増加により、前年度より3.8%増の55.0百万トンで史上最高の見込み。

ブエノスアイレス穀物取引所週報(2022.6.16)によれば、2021/22年度の収穫進捗率は37%で、霜害の影響を受けやすい大豆の収穫作業を優先させているため過去5年平均より14ポイント遅れている。作柄は良からやや良が71%と前週(76%)から低下。

【需要状況】USDAによれば、2022/23年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、飼料用消費の増加に伴い、前年度より2.2%増の14.0百万トンと史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2022/23年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、生産量の増加に伴い、前年度より5.1%増の41.0百万トンと史上最高の見込み。

アルゼンチン国家統計局によれば、2022年1～4月の輸出量は11.0百万トンで、前年同期(9.9百万トン)より10.5%増。内訳は、1位がベトナム1.7百万トン、2位がペルー1.0百万トン、3位がマレーシア1.0百万トン。

アルゼンチン政府は、財政赤字の補填等のため、2019年12月14日、輸出税を約7%から12%へ引き上げ、その後継続している。

2021年12月17日、アルゼンチン農牧漁業大臣が2021/22年度のとうもろこしと小麦の輸出に関し、輸出上限数量を設定することを表明。同省プレスによれば、とうもろこしの輸出上限数量は4,160万トンとしている。

## とうもろこし—アルゼンチン

(単位：百万トン)

年度	2020/21	2021/22 (見込み)	2022/23 (23年3月～24年2月)			
			予測値、( )はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	52.0	53.0	55.0 (60.6)	-	3.8	
消費量	13.5	13.7	14.0 (21.2)	-	2.2	
うち飼料用	9.5	9.8	10.0 (16.3)	-	2.0	
輸出量	40.9	39.0	41.0 (41.0)	-	5.1	
輸入量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-	
期末在庫量	1.2	1.5	1.5 (2.5)	-	-	
期末在庫率	2.2%	2.8%	2.7% (4.0%)	-	▲ 0.1	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	6.55	7.20	7.00 (8.00)	-	▲ 2.8	
単収(t/ha)	7.94	7.36	7.86 (7.58)	-	6.8	

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(10 June 2022)  
IGC 「Grain Market Report」(19 May 2022)

### 写真：北部サンタフェ州の遅植えとうもろこしの生育風景 (5月30日撮影)

前年12月末に作付けされ、成熟期を迎えている。

収穫作業は7月を予定。

生育期を通じた天候不順で、実入りが悪い。



## < 中国 > 生産量減少、消費量史上最高、輸入量減少の見通し

【生育・生産状況】USDAによれば、2022/23年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、政府補助金による大豆奨励策により作付けが大豆にシフトし、収穫面積が減少することから、前年度より0.6%減の271.0百万トンの見込み。

中国中央气象台週報（2022.6.6）によれば、5月は日照時間が少なかったものの、土壌水分に恵まれ、播種・生育は順調で、6月上旬現在、東北地区の春とうもろこしは出苗期から三葉期に入っている。

【需要状況】USDAによれば、2022/23年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、旺盛な飼料用消費から前年度より1.4%増の295.0百万トンと史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2022/23年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、主要な輸入先であるウクライナの輸出減少に伴い、前年度より21.7%減の18.0百万トンの見込み。

中国の貿易統計によれば、2022年1～4月の輸入量は9.3百万トンで、前年同期比で8.5%増。内訳は、ウクライナ産4.7百万トン（50%）、米国産4.5百万トン（48%）。

5月23日には、中国政府は、ブラジル産とうもろこしについても検疫問題をクリアし輸入の合意に至ったと公表した。しかし、遺伝子組み換えに係る事項等を調整中とみられている。

農業農村部「農産品供需形勢分析月報 2022年4月号」によると、4月の国内流通価格は、2,900元/トンと前月（2,880元/トン）からやや上昇した。主な要因は、一部の地域で新型コロナウイルス感染対策が徐々に緩和され、加工業者の操業再開が需要を押し上げ、取引業者の仕入れ需要が高まった一方、小麦等の価格上昇でとうもろこしの飼料需要が増加したことである。また、4月の輸入価格は、ロシアのウクライナ侵攻による黒海での穀物輸出の中断、米国中西部の悪天候による作付けの遅れ等により、3,220元/トンと前月（3,120元/トン）から上昇し、国内価格を上回っている。他の穀物の代替輸入等も含め、今後の中国の輸入動向に注視が必要である。

## とうもろこし—中国

(単位：百万トン)

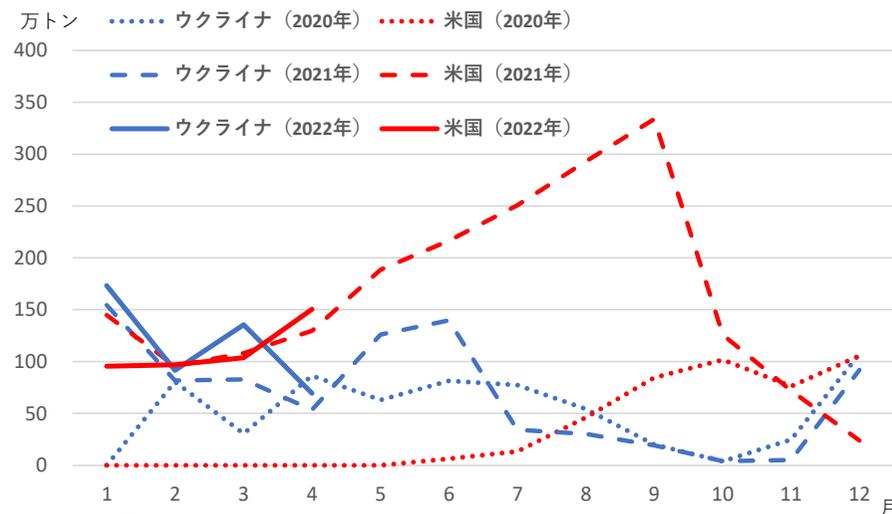
年 度	2020/21	2021/22 (見込み)	2022/23 (22年10月～23年9月)		
			予測値、( )はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	260.7	272.6	271.0 (273.0)	-	▲ 0.6
消費量	285.0	291.0	295.0 (305.2)	-	1.4
うち飼料用	203.0	209.0	214.0 (203.0)	-	2.4
輸 出 量	0.0	0.0	0.0 (0.1)	-	-
輸 入 量	29.5	23.0	18.0 (19.0)	-	▲ 21.7
期末在庫量	205.7	210.2	204.2 (175.0)	-	▲ 2.9
期末在庫率	72.2%	72.2%	69.2% (57.3%)	-	▲ 3.0

(参考)

収穫面積(百万ha)	41.26	43.32	43.00 (42.50)	-	▲ 0.7
単収(t/ha)	6.32	6.29	6.30 (6.42)	-	0.2

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(10 June 2022)  
IGC 「Grain Market Report」(19 May 2022)

図：中国におけるウクライナ・米国産とうもろこしの輸入状況



出典：中国海関統計

注：2020年1月分と2月分は合計で公表されたため、便宜上1/2で按分

## ＜ ウクライナ ＞ ロシアの侵攻の影響等で生産量・輸出量が大幅に減少見通し

【生育・生産状況】USDAによれば、2022/23年度の生産量は、ロシアによるウクライナ侵攻の影響で、燃料や肥料等の生産資材不足もあり、史上最高の生産量となった前年度より40.7%減の25.0百万トンの見込み。ただし、ウクライナ政府発表の作付け進捗データに基づく収穫面積の上方修正により前月予測から5.5百万トン上方修正された。

ウクライナ農業政策食料省によれば、作付けはほぼ終了し、6月16日時点の2022/23年度の作付面積は4.6百万ヘクタールで前年度（5.5百万ヘクタール）より減少している。

【需要状況】USDAによれば、2022/23年度の消費量は、生産量の大幅な減少に伴い、前年度より18.9%減の10.7百万トンの見込み。ただし、生産量の上方修正分（5.5百万トン）の一部は侵攻により利用に適さなくなるとの予想から、便宜的に飼料用等消費が1.5百万トン上方修正された。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2022/23年度の輸出量は、生産量の上方修正にも関わらず、ロシアの侵攻以降黒海の港の閉鎖が継続していることから、前月予測からの変更はなく、前年度より60.9%減の9.0百万トンの見込み。この輸出量は、紛争以前の潜在的な輸出可能量の三分の一以下となっている。

ウクライナ農業政策食料省によれば、5月の穀物・油糧種子・副産物の輸出量は174万トンで4月より180%増。3月～5月の輸出のうち道路経由11%、鉄道経由51%、ドナウ川沿いの港経由37%となっている。うち、とうもろこしの5月の輸出量は96万トンで4月の60万トンより60%増も、前年同月の225万トンに比べ大幅に減少。

USDAによれば、2022/23年度の期末在庫量は、生産量の上方修正分のおよそ半分が在庫となるため、前月予測から4.0百万トン上方修正され、前年度より78.3%増の12.1百万トンと史上最高の見込み。小麦を加算すると穀物の期末在庫量は20.0百万トンに達する。ウクライナ政府は、生産者に今後の収穫を保全するため、サイロバッグのような移動式貯蔵設備の入手を支援するとみられる。

## とうもろこしーウクライナ

(単位：百万トン)

年 度	2020/21	2021/22 (見込み)	2022/23 (22年10月～23年9月)		
			予測値、( )はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	30.3	42.1	25.0 (18.6)	5.5	▲ 40.7
消費量	7.1	13.2	10.7 (8.8)	1.5	▲ 18.9
うち飼料用	5.9	12.0	9.5 (5.5)	1.5	▲ 20.8
輸出量	23.9	23.0	9.0 (10.0)	-	▲ 60.9
輸入量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	▲ 100.0
期末在庫量	0.8	6.8	12.1 (9.2)	4.0	78.3
期末在庫率	2.7%	18.7%	61.3% (49.3%)	16.9%	42.6
(参考)					
収穫面積(百万ha)	5.40	5.49	4.50 (3.30)	1.00	▲ 18.0
単収(t/ha)	5.62	7.68	5.56 (5.64)	▲ 0.01	▲ 27.6

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(10 June 2022)  
IGC 「Grain Market Report」(19 May 2022)

図：とうもろこしの生産量、輸出量、期末在庫量の推移



資料：USDA 「PS&D」 (2022.6.10) をもとに農林水産省にて作成。

### 3 コメ

#### (1) 国際的なコメ需給の概要 (詳細は右表を参照)

<米国農務省 (USDA) の見通し>

2022/23 年度  
生産量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・インド、ペルー、ドミニカ共和国で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

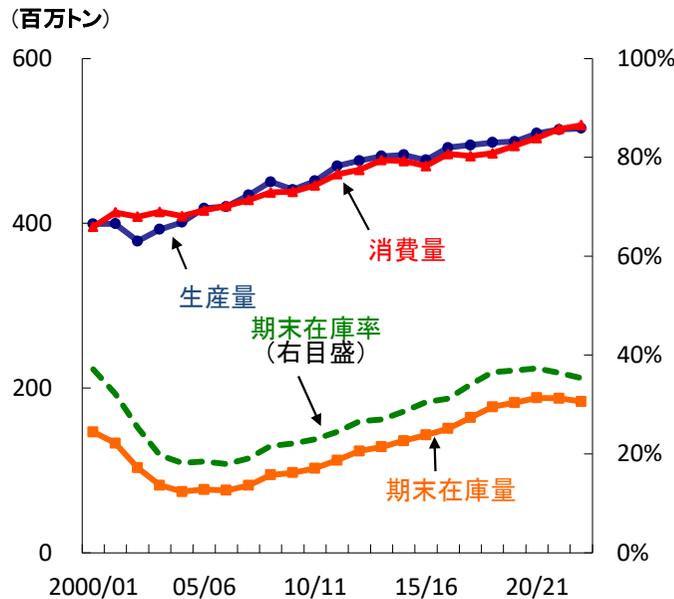
消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・エジプトで下方修正されたものの、インド、ブラジル等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 ↑ 前月比 —

・前月から変化なし。史上最高の見込み。

期末在庫量 前年度比 ↓ 前月比 ↓



資料：USDA「PS&D」(2022.6.10)をもとに農林水産省にて作成

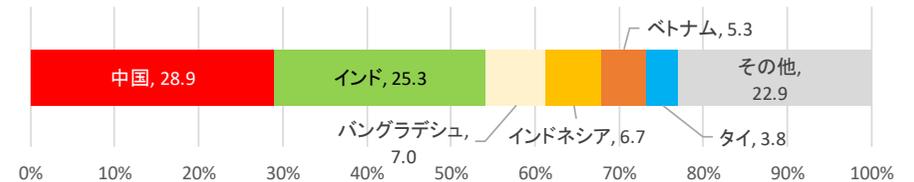
#### ◎世界のコメ需給

(単位：百万精米トン)

年度	2020/21	2021/22 (見込み)	2022/23		
			予測値	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	509.3	513.7	515.4	0.7	0.3
消費量	503.6	514.4	519.2	0.8	0.9
輸出量	50.9	52.9	54.2	-	2.4
輸入量	46.5	52.3	52.5	▲ 0.2	0.4
期末在庫量	188.0	187.3	183.4	▲ 2.8	▲ 2.1
期末在庫率	37.3%	36.4%	35.3%	▲ 0.6	▲ 1.1

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(10 June 2022)

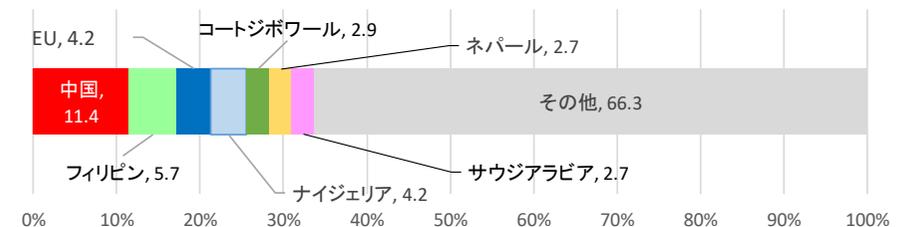
#### ○ 2022/23年度 世界のコメの生産量(515.4百万トン) (単位：%)



#### ○ 2022/23年度 世界のコメの輸出量(54.2百万トン) (単位：%)



#### ○ 2022/23年度 世界のコメの輸入量(52.5百万トン) (単位：%)



## (2) 国別のコメの需給動向

### < 米国 > 減産に伴い輸入が史上最高の見込み

【生育・生産動向】USDAによれば、2022/23年度の生産量は、前月予測からの変化はなく、特にカリフォルニア州における収穫面積の減少、および単収の若干の低下から、対前年度比 4.8%減の 5.8 百万トンと、ここ 5 年間で最も少なくなる見込み。(うち長粒種が 4.5 百万トン、単粒種が 1.3 百万トン)

同「Rice Outlook」(2022.6.14)によれば、南部の多くの地域は雨で作付けの開始が遅れたものの、6月5日までの週で、ほとんどの州がほぼ例年通りの進捗率となった。同「Crop Progress」(2022.6.21)によると、6月19日までの週で、主要6州における出穂率は5%と前年同期(3%)より高いものの、過去5年平均(5%)と同水準。作柄評価は、やや良から最良が99%と、ほぼ前年同期(97%)と同じ。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2022/23年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、供給量の減少により、対前年度比 3.8%減の 4.5 百万トンの見込み。

2022/23年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、引き続きタイ産ジャスミン米やインド産バスマティ米の輸入増加や、主にカリフォルニア州の干ばつの影響により中・短粒種米の輸入が史上最高になるとの予想から、対前年度比 7.1%増の 1.2 百万トンと、史上最高の見込み。

2022/23年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、供給量の減少、輸出価格の上昇により米国産米の競争力低下が予想されることから、対前年度比 2.6%減の 2.6 百万トンの見込み。

同「Rice Outlook」(2022.6.14)によれば、長粒種の価格はここ数か月間上昇しており、6月7日までの週のイラク向け長粒種(2等、砕米4%混入)は700ドル/トンと、2008年10月以来の高値となった(P.20の「長粒種のFOB価格の推移」を参照)。また中・短粒種の価格もここ数か月間上昇しており、6月7日までの週の地中海向けカリフォルニア米(1等、砕米4%混入)は、1,410ドル/トンと、5月10日までの週から45ドル上昇し、過去最高となった。

## コメー米国

主に長粒種はミシシッピ川沿いで栽培、中・短粒種のシェアは1/4  
米国のコメ生産に占めるカリフォルニア州のシェアは約2割

(単位:百万精米トン)

年度	2020/21	2021/22 (見込み)	2022/23 (22年8月~23年7月)		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	7.2	6.1	5.8	-	▲ 4.8
消費量	4.9	4.7	4.5	-	▲ 3.8
輸出量	3.0	2.7	2.6	-	▲ 2.6
輸入量	1.1	1.1	1.2	-	▲ 7.1
期末在庫量	1.4	1.2	1.1	0.0	▲ 10.7
期末在庫率	17.8%	16.5%	15.3%	0.6	▲ 1.2

(参考)

収穫面積(百万ha)	1.21	1.01	0.97	-	▲ 4.0
単収(もみt/ha)	8.54	8.64	8.52	-	▲ 1.4

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(10 June 2022)

### 図:2022/23年度の輸入が史上最高の見込み



資料: USDA 「Rice Outlook」(2022.6.14)より

## < インド > 単収の向上により生産量が7年連続史上最高を更新

【生育・生産動向】USDAによれば、2022/23年度の生産量は、単収の上方修正により、前月予測から0.5百万トン上方修正され、対前年度比0.6%増の130.5百万トンと、7年連続で史上最高を更新する見込み。南西部には例年通りモンスーンが到来している。

なお、USDA「Weekly Weather and Crop Bulletin」(2022.6.14)によると、降雨量が例年より非常に少なく、一部地域で、カリフ米の播種には土壌水分量が不足している。6月1日までの降雨量が、過去30年で2番目の低水準となっている地域もある。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2022/23年度の消費量は、生産量の上方修正に伴い、前月予測から0.5百万トン上方修正され、対前年度比0.5%増の107.5百万トンと史上最高の見込み。これは、小麦の供給逼迫を受け、政府が低所得世帯向け食料配給プログラム等で対象穀物を小麦からコメへシフトさせているため。

USDAによれば、2022/23年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、史上最高の生産量や価格競争力から、22.0百万トンと、前年度を4.8%上回り、史上最高となる見込み。輸出シェアは世界全体の約41%を占め、世界最大のコメ輸出国となる見通し。また、主に中国、西アフリカ、ベトナム向けの碎米輸出量も史上最高となる見込み。

なお、インド商務省によると、2021年4月～2022年3月の輸出量の合計は21.2百万トンであり、主要輸出先国は中国(1.6百万トン)、バングラデシュ(1.6百万トン)、ベナン(1.5百万トン)、ネパール(1.4百万トン)である。

USDAによると、2022/23年度の期末在庫量も、史上最高の39.7百万トンの見込み。ただし、2021/22年度の消費量の上方修正により、前月予測から2.8百万トン下方修正された。

インド産米(碎米5%混入)の6月7日までの週の価格は、330ドル/トンと、依然としてアジアの主要輸出国の中で最も低い価格となっている(P.20の「長粒種のFOB価格の推移」を参照)。

## コメ・小麦

雨季をカリフ、乾季をラビと呼ぶ。北部はカリフ・ラビ(小麦)の二毛作、南部はカリフ・ラビの二期作。主にインディカを栽培

(単位:百万精米トン)

年度	2020/21	2021/22 (見込み)	2022/23 (22年10月～23年9月)			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	124.4	129.7	130.5 (129.5)	0.5	0.6	
消費量	101.1	107.0	107.5 (108.0)	0.5	0.5	
輸出量	20.2	21.0	22.0 (19.3)	-	4.8	
輸入量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-	
期末在庫量	37.0	38.7	39.7 (39.9)	▲ 2.8	2.6	
期末在庫率	30.5%	30.2%	30.7% (31.3%)	▲ 2.3	0.4	

(参考)

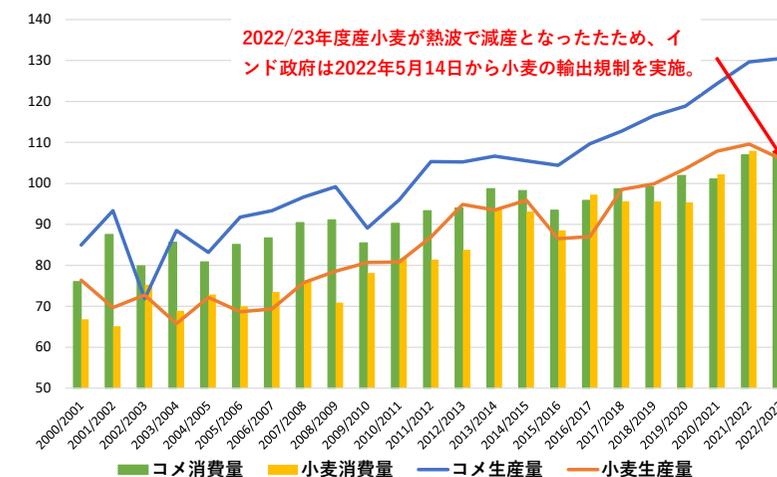
収穫面積(百万ha)	45.77	47.00	47.00 (46.00)	-	-
単収(もみt/ha)	4.08	4.14	4.17 (2.82)	0.02	0.7

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、

「World Agricultural Production」(10 June 2022)

IGC「Grain Market Report」(19 May 2022) (単収は精米t/ha)

図: コメ・小麦の消費量・生産量の推移



資料: USDA「PS&D」(2022.6.10)をもとに農林水産省にて作成

## < 中国 > 世界の期末在庫量のうち、中国の割合は6割弱

【生育・生産動向】USDAによれば、2022/23年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、前年度をわずかに上回って149.0百万トンと、史上最高の見込み。

中国中央气象台（2022.6.3）によれば、5月末現在、一期作米の大部分は生育期が平年並みまたはやや早くなっており、作柄は良好である。また、二期作早期米の大部分は、生育期が平年並みから3～7日早く、作柄は良好。浙江、湖北地区は分けつ期に入っており、福建、江西地区は分けつから節間伸長期、湖南地区は活着から節間伸長期、安徽地区は節間伸長期、広東、広西地区は節間伸長期から穂ばらみ期、海南地区は穂ばらみ期に入っている。

なお、USDA「Weekly Weather and Crop Bulletin」（2022.6.14）によると、6月5日～11日にかけて、中国南部の一部地域で豪雨による洪水があり、二期作早期米の生育に影響が懸念されているが、必要な土壌水分量は供給されているとみられる。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2022/23年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比0.5%増の156.6百万トンと、史上最高の見込み。とうもろこしなど飼料用穀物の価格高騰を背景に、飼料用等として低価格の碎米をインドやパキスタン等から輸入している。

2022/23年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、こうした飼料用碎米の輸入が継続する見込みから、前年度から0.4百万トン増加して、6.0百万トンと史上最高の見込み。

中国海関統計によれば、2022年1～4月の輸入量は、対前年同期の1.9百万トンから約18%増の2.2百万トンであった。輸入先はパキスタンが0.6百万トン、インドが0.7百万トン。

USDAによれば、2022/23年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく、生産量と輸入を上回る消費の増加により、前年度末から4.0百万トン減少して、109.0百万トンとなる見込み。なお、世界の期末在庫量のうち、中国が6割弱を占める見通し。

## コメー中国

北部で一期作、南部で二期作。ジャポニカ(粳)米は東北地区、江蘇省等で栽培、生産シェアは3割程度

(単位：百万精米トン)

年 度	2020/21	2021/22 (見込み)	2022/23 (22年7月～23年6月)		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	148.3	149.0	149.0 (149.8)	-	0.0
消費量	150.3	155.8	156.6 (153.9)	-	0.5
輸出量	2.2	2.3	2.4 (2.4)	-	6.7
輸入量	4.2	5.6	6.0 (5.0)	-	7.1
期末在庫量	116.5	113.0	109.0 (106.3)	-	▲ 3.5
期末在庫率	76.4%	71.5%	68.6% (68.0%)	-	▲ 2.9

(参考)

収穫面積(百万ha)	30.08	29.92	30.00 (30.03)	-	0.3
単収(もみt/ha)	7.04	7.11	7.10 (4.99)	-	▲ 0.1

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(10 June 2022)  
IGC「Grain Market Report」(19 May 2022) (単収は精米t/ha)

## 写真：黒竜江省の水稲風景

(5月17日(移植作業)、6月8日現在)



## < タイ > パーツ安や低価格他国産米への需要シフトで輸出価格は下落傾向

【生育・生産動向】USDAによれば、2022/23年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比0.8%増の19.8百万トンの見込み。

2021/22年度の実績は、前月予測からの変更はなく、対前年度比4.2%増の19.7百万トンの見込み。

なお、タイ農業経済局によれば、収穫面積が拡大した理由は、前年5月から8月の降雨量が多く、栽培に十分な水分が確保され、作付面積を拡大したためとみられる。また政府は、2021/22年度稲作価格保証プログラム等で継続的に生産者を援助している。

USDA「Weekly Weather and Crop Bulletin」(2022.6.14)によると、ここ1か月の降水量は例年以上となったものの、6月5日～11日にかけて、タイの大部分で降水量が25mm以下と記録的に少なくなり、それ以上の降水量があった地域は限定的であった。現地調査会社によれば、今後降雨不足が継続すると、地域によっては生育が影響を受ける可能性も指摘されている。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2022/23年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、生産量の増加に伴い、対前年度比7.1%増の7.5百万トンの見込み。インドに次ぐ世界第2位のコメ輸出国となる見通し。

2021/22年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比7.1%増の7.0百万トンとなる見込み。

USDA「Rice Outlook」(2022.6.14)によれば、6月7日までの週のタイ産米(長粒、2等精米)の輸出価格は、5月10日までの週の価格から2ドル下落し、456ドルトンとなっている(P.20の「長粒種のFOB価格の推移」を参照)。

IGC「Grain Market Indicators」(2022.6.14)によると、パーツ安やより価格の低い輸出国のコメへのシフトなどから、価格は下落傾向にある。

## コメ・タイ

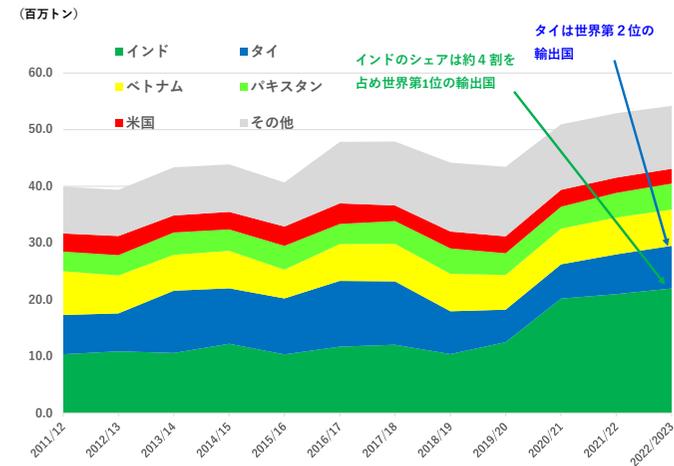
夏の雨季作と冬の乾季作で行われる。主にインディカ米を栽培

(単位:百万精米トン)

年 度	2020/21	2021/22 (見込み)	2022/23 (23年1月～23年12月)		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	18.9	19.7	19.8 (20.0)	-	0.8
消費量	12.7	13.0	13.1 (12.1)	-	0.8
輸出量	6.1	7.0	7.5 (7.9)	-	7.1
輸入量	0.2	0.2	0.2 (0.3)	-	-
期末在庫量	4.3	4.1	3.5 (6.9)	-	▲ 14.5
期末在庫率	22.8%	20.7%	17.1% (34.7%)	-	▲ 3.5
(参考)					
収穫面積(百万ha)	10.51	10.59	10.70 (10.50)	-	1.0
単収(もみt/ha)	2.72	2.81	2.80 (1.90)	-	▲ 0.4

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(10 June 2022)  
IGC「Grain Market Report」(19 May 2022) (単収は精米t/ha)

図: 世界のコメの主要輸出国の輸出量の推移



資料: USDA「PS&D」(2022.6)をもとに農林水産省にて作成

＜ ベトナム ＞ 2021/22 年度の夏秋作の作付けが開始。進捗率は約 4 割。

【生育・生産動向】 USDA によれば、2022/23 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、単収が 6.01 トン/ヘクタールと過去最高になることから、対前年度比 0.3% 増の 27.4 百万トンの見込み。

2021/22 年度の実生産量は、前月予測からの変更はなく、単収・収穫面積ともわずかに減少していることから、対前年度比 0.4% 減の 27.3 百万トンの見込み。

ベトナム農業・農村開発省によれば、夏秋作の作付けが開始され、6 月 10 日時点の作付面積は 1.15 百万ヘクタールの見込み。対前年度実績 (2.67 百万ヘクタール) 比で約 4 割進捗している。

【貿易情報・その他】 USDA および IGC 「Grain Market Indicators」 (2022.6.17) によれば、2022/23 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比 1.5% 減の 6.4 百万トンの見込み。

2021/22 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比 3.2% 増の 6.5 百万トンの見込み。

ベトナム税関総局によれば、2022 年 1～4 月の輸出量は 2.1 百万トンであり、上位からフィリピン (0.9 百万トン)、中国 (0.3 百万トン)、コートジボワール (0.2 百万トン) となっている。うちジャポニカ米は 0.06 百万トン。

USDA 「Rice Outlook」 (2022.6.14) によれば、冬春作のベトナム産米 (長粒種、5% 砕米混入) の 6 月 7 日までの週の価格は、前月から 5 ドル/トン上昇して 425 ドル/トンと、前年 11 月以来の高値となった。

コメベトナム

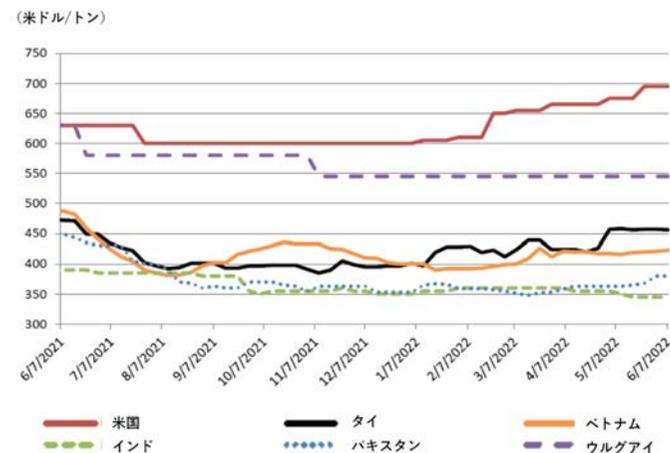
北部で二期作、南部で二期作・三期作。主に長粒種、一部で短粒種も栽培

(単位: 百万精米トン)

年 度	2020/21	2021/22 (見込み)	2022/23 (23年1月～23年12月)			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	27.4	27.3	27.4 (28.9)	-	0.3	
消費量	21.5	21.5	21.6 (23.6)	-	0.2	
輸出量	6.3	6.5	6.4 (6.5)	-	▲ 1.5	
輸入量	1.8	0.8	0.6 (1.0)	-	▲ 25.0	
期末在庫量	2.6	2.8	2.8 (3.0)	-	1.8	
期末在庫率	9.5%	9.9%	10.1% (10.0%)	-	0.2	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	7.31	7.30	7.29 (7.28)	-	▲ 0.1	
単収(もみt/ha)	6.00	5.99	6.01 (3.98)	-	0.3	

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」 (10 June 2022)  
IGC 「Grain Market Report」 (19 May 2022) (単収は精米t/ha)

図: 長粒種の FOB 価格の推移



資料: USDA 「Grain : World Markets and Trade」 (2022. 6. 10)

## II 油糧種子 大豆

### (1) 国際的な大豆需給の概要（詳細は右表を参照）

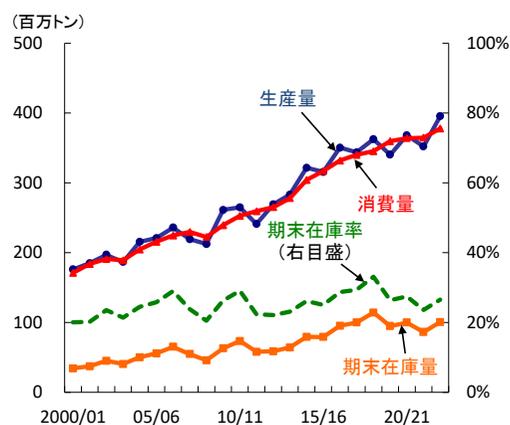
＜米国農務省（USDA）の見通し＞ 2022/23 年度

**生産量** 前年度比 ↑ 前月比 ↑  
 ・ウクライナ等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

**消費量** 前年度比 ↑ 前月比 ↑  
 ・ブラジル等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

**輸出量** 前年度比 ↑ 前月比 ↑  
 ・ウクライナで上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

**期末在庫量** 前年度比 ↑ 前月比 ↑



資料：USDA「PS&D」（2022.6.10）をもとに農林水産省で作成

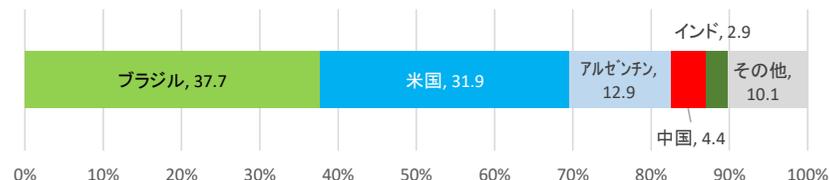
## ◎世界の大豆需給

（単位：百万トン）

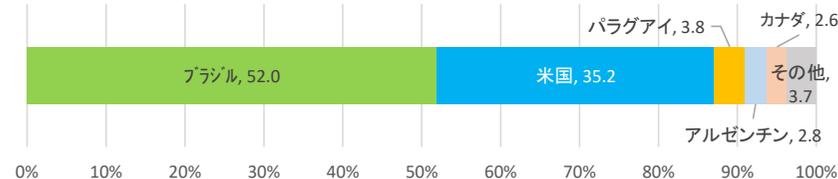
年 度	2020/21	2021/22 (見込み)	2022/23		
			予測値	前月予測からの 変更	対前年度 増減率(%)
生産量	368.1	352.0	395.4	0.7	12.3
消費量	363.9	364.7	377.9	0.4	3.6
うち搾油用	315.1	315.4	327.2	0.4	3.7
輸出量	164.5	155.9	170.3	0.3	9.2
輸入量	165.5	154.8	167.1	-	8.0
期末在庫量	99.9	86.2	100.5	0.9	16.6
期末在庫率	27.5%	23.6%	26.6%	0.2	3.0

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」（10 June 2022）

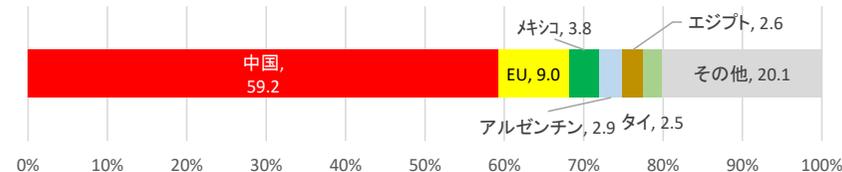
### ○ 2022/23 年度の世界の大豆の生産量 (395.4 百万トン) (単位：%)



### ○ 2022/23 年度の世界の大豆の輸出量 (170.3 百万トン) (単位：%)



### ○ 2022/23 年度の世界の大豆の輸入量 (167.1 百万トン) (単位：%)



## (2) 国別の大豆の需給動向

### < 米国 > 生産量は史上最高、輸出増の見通し

【生育・生産状況】USDAによれば、2022/23年度の実生産量は、前月予測からの変更はなく、肥料価格高騰による作付けのとうもろこしからのシフトを背景に収穫面積の増加から、前年度より4.6%増の126.3百万トンと史上最高の見込み。

5月上旬までの中西部の低温で雨がちな天候により遅れていた作付けは5月中旬以降の天候改善で急速に進展した。USDA「Crop Progress」(2022.6.21)によれば、主要18州における作付け進捗率は94%と、前年度同期(97%)より遅れているものの、過去5年平均(93%)より進んでいる。発芽率は83%と、前年度同期(90%)及び過去5年平均(84%)より遅れている。作柄評価は良からやや良が68%と前年度同期(60%)を上回っている。

【需要状況】USDAによれば、2022/23年度の実消費量は、前月予測からの変更はなく、旺盛な搾油用需要から、前年度より2.1%増の64.8百万トンで史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2022/23年度の実輸出量は、前月予測からの変更はなく、前年度より1.4%増の59.9百万トンの見込み。なお、2021/22年度の実輸出量は、最近の堅調な輸出実績とブラジルの輸出見通しの下方修正に伴い、前月予測から0.8百万トン上方修正され、59.1百万トンの見込み。

USDAによれば、2022年輸出検証高(2022年1月6日～6月2日)は、19.0百万トンであり、内訳は中国(8.5百万トン)、メキシコ(2.1百万トン)、エジプト(2.0百万トン)、インドネシア(1.0百万トン)、日本(0.9百万トン)の順。

USDAによれば、2022/23年度の期末在庫量は、前年度の実輸出量の上方修正に伴い、前月予測から0.8百万トン下方修正され、前年度より36.4%増の7.6百万トンの見込み。なお、期末在庫率は6.1%で、前年度を上回るものの、依然として低水準の見込み。

## 大豆－米国

(単位：百万トン)

年度	2020/21	2021/22 (見込み)	2022/23 (22年9月～23年8月)		
			予測値	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	114.8	120.7	126.3	-	4.6
消費量	61.1	63.5	64.8	-	2.1
うち搾油用	58.3	60.3	61.4	-	1.8
輸出入量	61.5	59.1	59.9	-	1.4
輸用量	0.5	0.4	0.4	-	-
期末在庫量	7.0	5.6	7.6	▲ 0.8	36.4
期末在庫率	5.7%	4.6%	6.1%	▲ 0.7	1.6
(参考)					
収穫面積(百万ha)	33.43	34.94	36.46	-	4.4
単収(t/ha)	3.43	3.45	3.46	-	0.3

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(10 June 2022)

図：米国、ブラジル、アルゼンチンの大豆輸出価格(FOB)の推移



資料：IGCのデータをもとに農林水産省にて作成

## < ブラジル > 2021/22 年度の収穫終了、高温・乾燥で減産見通し

【生育・生産状況】USDAによれば、本年10月以降に作付けが開始される2022/23年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積及び単収の増加から、前年度より18.3%増の149.0百万トンと史上最高の見込み。なお、2021/22年度の実績は、マット・グロッソ州の収穫面積の上方修正に伴い、前月予測から1.0百万トン上方修正されたものの、2020/21年度より9.7%減の126.0百万トンの見込み。収穫作業は、主産地で終了している。

また、ブラジル食料供給公社(CONAB)月例報告(2022.6.8)によれば、2021/22年度の実績は、南部の州を中心に深刻な高温・乾燥の影響を受け、前年度より10.1%減の124.3百万トンの見込み。

【需要状況】USDAによれば、2022/23年度の消費量は、旺盛な搾油用需要により前月予測から0.3百万トン上方修正され、前年度より1.2%増の52.4百万トンと史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2022/23年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、生産量の増加に伴い、前年度より7.6%増の88.5百万トンと史上最高の見込み。なお、2021/22年度の輸出量は、輸出ペースの減速により前月予測から0.5百万トン下方修正されたものの、2020/21年度より0.7%増の82.3百万トンの見込み。

ブラジル貿易統計によれば、2022年1～4月の輸出量は30.4百万トンで、前年同期(31.5百万トン)に比べ3.5%減となっている。内訳は、1位が中国22.3百万トン、2位がスペイン1.6百万トン、3位がタイ0.9百万トンとなっている。なお、4月の輸出量は11.5百万トンで前年同月(16.1百万トン)と比べ、28.8%減となっている。例年より収穫の遅れが目立った前年と異なり、本年は年初から輸出が順調であったため、4月の輸出量は前年より低い数量となった。

## 大豆—ブラジル

(単位：百万トン)

年度	2020/21	2021/22 (見込み)	2022/23 (22年10月～23年9月)		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	139.5	126.0	149.0 (142.0)	-	18.3
消費量	49.9	51.8	52.4 (49.1)	0.3	1.2
うち搾油用	46.7	48.5	49.0 (46.3)	0.3	1.0
輸出量	81.7	82.3	88.5 (88.4)	-	7.6
輸入量	1.0	0.5	0.8 (0.2)	-	66.7
期末在庫量	29.4	21.9	30.8 (8.5)	0.3	40.7
期末在庫率	22.4%	16.3%	21.8% (6.2%)	0.1	5.5
(参考)					
収穫面積(百万ha)	39.20	41.00	42.00 (41.40)	-	2.4
単収(t/ha)	3.56	3.07	3.55 (3.43)	-	15.6

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(10 June 2022)  
IGC「Grain Market Report」(19 May 2022)

### ブラジルのクロープカレンダー(中部から南部)

2021/22年度	2021年												2022年											
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9			
夏とうもろこし	リオ・グランデ・ド・スール州等						作付 4.5(百万ha)						収穫 24.8(百万t)									→ 収穫夏冬計 115.2百万t		
冬とうもろこし	作付面積夏冬計 21.7百万ha ←												作付 17.1(百万ha)			収穫 90.4(百万t)								
大豆	マット・グロッソ州、パラナ州等						作付 41.0(百万ha)						収穫 124.3(百万t)									↑ 大豆収穫後の一部圃場で冬とうもろこし播種		

資料：CONAB穀物レポート(2022.6.8)

## < アルゼンチン > 2021/22 年度は高温・乾燥で減産見通し、輸出税は継続

【生育・生産状況】USDAによれば、本年11月以降作付けが開始される2022/23年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積及び単収の増加から、高温・乾燥の影響を受けた前年度より17.5%増の51.0百万トンと史上最高の見込み。なお、2021/22年度の実績は、収穫終盤での単収の上方修正により前月予測から1.4百万トン上方修正されたものの、生育期の高温・乾燥の影響で、2020/21年度より6.1%減の43.4百万トンの見込み。

ブエノスアイレス穀物取引所週報(2022.6.16)によれば、2021/22年度の実績進捗率は99%で、過去5年平均(99%)と並び、収穫終盤となっている。

【需要状況】USDAによれば、2022/23年度の実績消費量は、前月予測からわずかに下方修正されたものの、生産量の増加に伴い、前年度より1.7%増の48.3百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2022/23年度の実績輸出量は、前月予測からの変更はなく、生産量の増加に伴い、前年度より70.9%増の4.7百万トンの見込み。

アルゼンチン国家統計局によれば、2022年1～4月の輸出量は2.0万トンで、前年同期(47.9万トン)より95.8%減。内訳は、1位がチリ1.7万トンとなっている。現地情報によると、5月以降徐々に輸出は持ち直してくるとみられている。

アルゼンチンは、丸大豆より搾油後に発生する大豆加工品の輸出が多く、大豆油及び大豆粕については、世界第1位の輸出国である。

アルゼンチン政府は、財政赤字の補填等のため、輸出税を設定している。2021年1月以降、輸出税を大豆最大33%、大豆油及び大豆粕31%に設定。さらに、2022年3月19日付けアルゼンチン農牧漁業省プレスによれば、大豆油及び大豆粕の輸出税について2022年末まで2%引き上げ、大豆と横並びの33%に変更した。

## 大豆ーアルゼンチン

(単位：百万トン)

年 度	2020/21	2021/22 (見込み)	2022/23 (22年10月～23年9月)			
			予測値、()はIGC		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	46.2	43.4	51.0	(48.0)	-	17.5
消費量	47.4	47.5	48.3	(47.5)	▲ 0.0	1.7
うち搾油用	40.2	40.3	41.0	(41.5)	-	1.9
輸 出 量	5.2	2.8	4.7	(4.1)	-	70.9
輸 入 量	4.8	2.4	4.8	(4.6)	-	100.0
期末在庫量	25.1	20.7	23.5	(3.4)	1.4	13.8
期末在庫率	47.6%	41.1%	44.4%	(6.6%)	2.7	3.3
(参考)						
収穫面積(百万ha)	16.47	16.00	17.00	(16.65)	-	6.3
単収(t/ha)	2.81	2.71	3.00	(2.88)	-	10.7

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」  
「World Agricultural Production」(10 June 2022)  
IGC「Grain Market Report」(19 May 2022)

写真：北部サンタフェ州の大豆の保管風景  
(6月1日撮影)



## < 中国 > 増産見通し、消費量・輸入量も増加見通し

【生産・生育状況】USDAによれば、2022/23年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、政府の補助金による大豆奨励策から主に収穫面積の増加により、前年度より6.7%増の17.5百万トンの見込み。

中国中央气象台週報（2022.6.6）によれば、5月の主産地の天候はおおむね良好で、6月上旬現在、黒竜江省等東北地区は出苗期から三葉期に入っている。

【需要状況】USDAによれば、2022/23年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、国内大豆粕需要の回復による搾油用消費量の増加から、前年度より6.3%増の115.6百万トンと史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2022/23年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、搾油用消費量の増加に伴い、前年度より7.6%増の99.0百万トンの見込み。

中国の貿易統計によれば、2022年1～4月の輸入量は28.4百万トンと、前年同期比で0.9%減。内訳は、米国産15.0百万トン（53%）、ブラジル産12.7百万トン（45%）。前年同期は米国産の輸入が74%を占めていたが、2022年はブラジルの収穫が主産地で例年より早く終了したこともあり、ブラジル産の輸入シェアが高まっている。

農業農村部「農産品供需形勢分析月報 2022年4月号」によると、4月は、新型コロナウイルス感染対策下で、大豆販売業者は仕入れに慎重であった一方、政府備蓄倉庫の買付は依然として継続しており、4月の国内価格（山東省の国産大豆工場渡し価格）は、前月（6,500元/トン）から横ばいの6,500元/トンで、依然として高水準で推移している。4月の輸入価格（山東省の輸入大豆価格）は、これまでの乾燥天候で南米産大豆の減産が確実にあった一方、米国の新穀大豆の作付面積が市場予想を上回ったことから、5,240元/トンと前月（5,320元/トン）から下落した。今後の中国の輸入動向に注視が必要である。

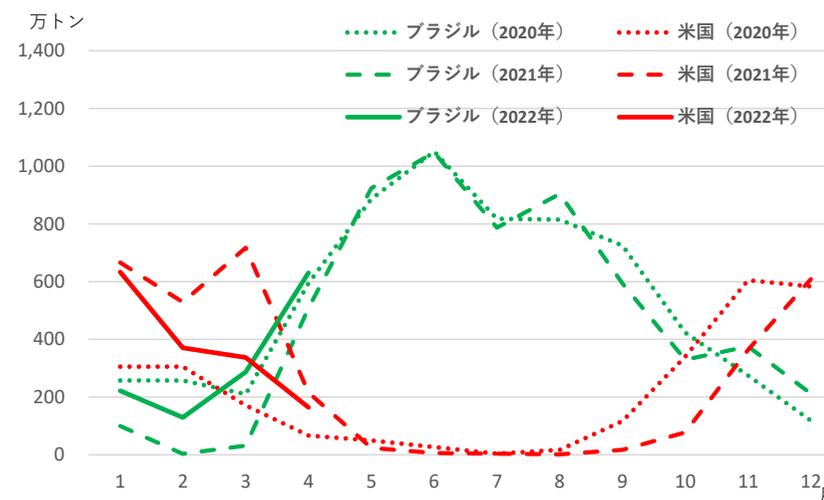
## 大豆—中国

（単位：百万トン）

年 度	2020/21	2021/22 (見込み)	2022/23 (22年10月～23年9月)			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	19.6	16.4	17.5 (19.5)	-	6.7	
消費量	112.7	108.7	115.6 (116.2)	-	6.3	
うち搾油用	93.0	89.0	95.0 (97.5)	-	6.7	
輸 出 量	0.1	0.1	0.1 (0.1)	-	-	
輸 入 量	99.8	92.0	99.0 (98.5)	-	7.6	
期末在庫量	31.2	30.7	31.6 (30.5)	-	2.7	
期末在庫率	27.6%	28.2%	27.3% (26.2%)	-	▲ 1.0	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	9.88	8.40	8.90 (9.90)	-	6.0	
単収(t/ha)	1.98	1.95	1.97 (1.97)	-	1.0	

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(10 June 2022)  
IGC「Grain Market Report」(19 May 2022)

図：中国におけるブラジル、米国産大豆の輸入状況



出典：中国海関統計

注：2020年1月分と2月分は合計で公表されたため、便宜上1/2で按分

## < カナダ > 収穫面積の増加により増産、輸出量も増加見通し

【生育・生産状況】USDAによれば、2022/23年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、単収は減少するものの、収穫面積の増加から、前年度より0.4%増の6.3百万トンの見込み。

USDA「Weekly Weather and Crop Bulletin」(2022.6.14)によれば、主産地のカナダ南東部では、降雨があった。特に、オンタリオ州では降雨過多で作付け遅れも発生している。また、マニトバ州など平原3州でも、降雨があった。

なお、カナダ農務農産食品省(AAFC)「Outlook for Principal Field Crops」(2022.6.20)によれば、2022/23年度の生産量は、作付意向面積の増加と過去5年平均単収を前提とすれば、前年度より2.0%増の6.4百万トンの見込み。

【需要状況】USDAによれば、2022/23年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、前年度より3.2%減の2.4百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2022/23年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、前年度より6.0%増の4.5百万トンの見込み。

カナダ穀物委員会(Canadian Grain Commission)によれば、2021/22年度(2021年8月～2022年7月)のうち、2021年8月～2022年4月の輸出量は262.7万トンで、国別では、イラン(47.1万トン)、イタリア(37.2万トン)、オランダ(22.6万トン)、アルジェリア(21.9万トン)、中国(21.2万トン)の順。

## 大豆—カナダ

(単位:百万トン)

年 度	2020/21	2021/22 (見込み)	2022/23 (22年8月～23年7月)		
			予測値、()はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	6.4	6.3	6.3 (6.4)	-	0.4
消費量	2.7	2.4	2.4 (2.4)	-	▲3.2
うち搾油用	1.6	1.9	1.8 (1.9)	-	▲5.4
輸 出 量	4.5	4.2	4.5 (4.5)	-	6.0
輸 入 量	0.5	0.5	0.5 (0.4)	-	▲2.0
期末在庫量	0.3	0.4	0.4 (0.4)	▲0.1	▲4.7
期末在庫率	4.1%	6.4%	6.0% (5.1%)	▲1.5	▲0.5
(参考)					
収穫面積(百万ha)	2.04	2.13	2.20 (2.17)	-	3.3
単収(t/ha)	3.12	2.94	2.86 (2.96)	-	▲2.7

資料:USDA「PS&D」

「World Agricultural Production」(10 June 2022)

AAFC「Outlook for Principal Field Crops」(20 June 2022)

## 写真:カナダ平原部マニトバ州の大豆の生育風景 (6月11日撮影)



(参考)本レポートに使用されている各国の穀物年度について (2022/23年度)

	小麦	とうもろこし	コメ	大豆
米国	22年6月～23年5月	22年9月～23年8月	22年8月～23年7月	22年9月～23年8月
カナダ	22年8月～23年7月			22年8月～23年7月
豪州	22年10月～23年9月		23年3月～24年2月	
EU	22年7月～23年6月	22年10月～23年9月		
中国	22年7月～23年6月	22年10月～23年9月	22年7月～23年6月	22年10月～23年9月
ロシア	22年7月～23年6月	22年10月～23年9月		22年9月～23年8月
ウクライナ	22年7月～23年6月	22年10月～23年9月		
ブラジル		23年3月～24年2月	23年4月～24年3月	22年10月～23年9月
アルゼンチン	22年12月～23年11月	23年3月～24年2月		22年10月～23年9月
タイ			23年1月～12月	
インド	22年4月～23年3月		22年10月～23年9月	
ベトナム			23年1月～12月	

注 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。

例えば、2022/23年度は、米国の小麦では2022年6月～2023年5月、ブラジルのとうもろこしでは2023年3月～2024年2月です。

なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads> (「Reference Data」タブを参照)